



南三陸町立歌津中学校

歌津中学校だより

# たつがね



教育目標 志をもち、たくましく未来を拓く生徒の育成

令和7年3月8日

第48号

文責：伊藤 浩志

## 3月8日（土）卒業式が行われました



3月8日（土）第78回卒業式が執り行われました。

担任の小山先生からの呼名に大きな声で返事をし、校長先生から1人1人卒業証書が授与されました。9年間の義務教育を終えた生徒たちの堂々とした姿が輝いていました。

送辞では、牧野泰知さんが卒業生への感謝の気持ちを切々と述べると、答辞では、阿部ひよりさんが「感謝の気持ちを心からありがとう」と伝える内容でした。そして、3年生の卒業合唱として「手紙」の合唱がありました。深々と心に響き、3年生の気持ちがひとつになっていくのが伝わってきました。その後、「旅立ちの時～Asian Dream Song～」の全校合唱の中、卒業生が退場しました。たくさんの方への感謝や中学校生活への思いが会場いっぱいに広がりました。厳粛な中にも感動のある温かい卒業式になりました。

たくさんの心温まるお励ましの言葉もいただきました。ありがとうございました。



### <卒業式の式辞>

冬のピンと張り詰めた冷たい空気もようやく和らぎはじめ、時折見せるあたたかな日差しから、ここ歌津の地にも春の訪れが感じられるようになりました。

今日ここに、南三陸町 町長 佐藤 仁 様をはじめ十二名のご来賓の方々そして、たくさんの保護者の皆様のご臨席を賜り、南三陸町立歌津中学校第七十八回卒業式を挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

ただ今、二十九名一人一人に卒業証書を授与いたしました。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんを含め、この学び舎から巣立った卒業生は、八千三百七名 となりました。

授与した卒業証書は、中学校の課程を修了したことの証です。これをもって、九年間の義務教育

を全て終わりました。ここからは、それぞれが選んだ新たな世界に向けて、堂々と胸を張り、大きな一歩を踏み出してください。

三年生の皆さんは、人の話をよく聞いて、自分たちでよく考えて行動に移すことのできるすばらしい集団でした。集会等で私が話をしているときも、まっすぐな瞳でこちらを見て話を聞いている姿が非常に印象的でした。そして、後輩達に対しては、先輩として、言葉よりも、自らが態度で見せることで、学校を引っ張っていました。こうした形のリーダーシップは、中総体や運動会、避難所運営活動でも発揮され、歌津中学校の歴史に、大きな功績を残しました。特に圧巻だったのは文化祭の合唱です。その大きく気持ちのこもった歌声で後輩達を引っ張り、来場して下さった観客を魅了しました。あの時の感動は今でも忘れられません。その時の文化祭テーマは「不撓不屈（ふとうふくつ）～何があっても挫（くじ）けない～」でした。生徒のみなさんが自分たちの力で考え、決めたこのテーマ。私はこのテーマが大変気に入っています。

歌津中学校教育目標の目指す生徒像 3 つの中のひとつに、「何事にもくじけず、進んでたくましい心と体をつくる生徒」というものがあります。このたくましい心と体は、人間にとって一番大切なものだと思います。「たくましい心」の中には、心が折れない強さや、負けない心、広い心、そして優しさ、思いやり等が含まれます。一方「たくましい体」には、活力みなぎる体、心身共に健康的な体等が含まれます。人として大きく成長するには、その両方をバランス良く身に付けなければなりません。しかし、現実社会に目を向ければ、大人にも子供にも困難なことがたくさんあり、なかなか思い通りにはいきません。心も体も疲れきってしまいそんなことも多々あります。そして、自分の不幸をついつい他人のせいにしてしまうなど、ともするとマイナス思考へ進んでしまうことも…。そのような中、この歌津の地に希望の光をあたえてくれたのが「不撓不屈」という言葉です。この言葉は、明日を担おうとしているみなさんから出てきました。なんて頼もしいこと！このポスターを見たとき、私自身が勇気付けてもらうきっかけにもなりました。

これから先の人生、辛いことがあった時こそ、是非この「不撓不屈（ふとうふくつ）～何があっても挫（くじ）けない～」精神で頑張ってもらいたいと思います。そして、人のために役に立てる人間を目指して、自分の選んだ道をしっかりと歩んで行ってください。そうすれば、必ず明るい未来が開けるはずです。

保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、三年間に渡りまして、本校の教育活動推進のために、温かいご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

九年間の義務教育が終了となるこの晴れの日を迎えるまでには、大変なご苦労があったのではないかとご推察いたします。自分の名前を呼ばれると笑顔を見せる時期となる一歳の頃の春。あの未曾有の東日本大震災が起きました。子どもたちのその笑顔を守るため、必死だったはずです。何とか復興の兆しが見えてきた十二歳の春。この頃は感染症の世界的な流行による様々な制約の真只中でした。この十五年の間、お子さんの幸せを願い、人知れず涙を流したことがたくさんあったのではないのでしょうか。

しかし、今こうして立派に十五の春を迎えた二十九名の凛々しい姿がここにあります。

本当に心からお祝いを申し上げます。

最後に、二十九名の卒業生の皆さんの末永い幸せと限りない発展を、心からお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和七年三月八日 南三陸町立歌津中学校 校長 熊谷岳哉